

岡山県の塩生植物

海水が流れ込む湿地（干潟）には「塩生植物（えんせいしょくぶつ）」と呼ばれる塩水に耐える植物が生育します。今回は岡山県に分布する塩生植物から4種類紹介します。いずれも岡山県版レッドデータブック 2020（以下、県 RDB）に掲載され、絶滅が心配されています。

1. シバナ *Triglochin asiatica*（シバナ科シバナ属） 県 RDB：絶滅危惧 I 類

岡山県では2か所のみで自生します。和名は「塩場菜（しおばな）」が転じたもので、塩性湿地に生え食用になることに由来します。

2. アッケシソウ *Salicornia europaea*（ヒユ科アッケシソウ属） 県 RDB：絶滅危惧 I 類

岡山県では浅口市が唯一の自生地とされます。和名は北海道の厚岸湖に由来します。晩秋に紅葉する様子が宝石サンゴを思わせることから、別名サンゴソウとも言います。

3. ウラギク *Tripolium pannonicum*（キク科ウラギク属） 県 RDB：準絶滅危惧

紫色の美しい花を咲かせます。和名は浦（入り江，湾）に生える菊の仲間であることに由来します。海岸に生えるシオンに似た植物であることから、別名ハマシオンとも言います。

4. フクド *Artemisia fukudo*（キク科ヨモギ属） 県 RDB：絶滅危惧 II 類

日本では中部地方以西に分布します。植物体には独特な強い香りがあります。変わった名前ですが意味はよく分かっていません。別名ハマヨモギとも言います。



1



2



3



4

鐵 慎太郎(植物担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには
いろいろな情報がいっぱい♪
「倉敷市立自然史博物館」で
検索してみよう！ パオより

